

# 第16回“いい川”・“いい川づくり”ワークショップ in 白山手取川 テーブル選考まとめ (2024/09/28)

全体選考への通過12団体

石川県下の55水系358地点 (株式会社環境公害研究センター)

別府八湯亀川温泉 (暗渠) 水路 (NPO法人北九州・魚部)

手取川 (白山手取川ジオパーク推進協議会)

琵琶湖 (川のおぢさん 川人 (がわと))

小山川・元小山川 (早稲田大学本庄高等学院河川研究班)

黒目川 (黒目川筋肉部)

十勝川相生中島上流湿地 (十勝川中部市民協働会議)

天竜川 (長野県) (特定非営利法人天竜川ゆめ会議)

梯川 (身近なSDGsの会「ごーる17こまつ」)

最上川ほか (特定非営利法人パートナーシップオフィス&全国川ごみネットワーク)

珠洲市内のため池群 (珠洲市自然共生室)

米川 (米川よろず会議)

テーブルコーディネーターからのコメント

テーブルA

十勝川：圧倒的自然 心躍る 野生生物観光は難しい

四万十川：四万十川はなにもしなくていいと思うけど 河川環境工事 時代に合わせて

石川県下の55水系358地点：環境DNAとは何か 生物の種類がわかる 本当にそこにいるのかを調査

四ツ谷用水：まちのインフラが忘れ去られてしまった 神社の太鼓橋まで

別府八湯亀川温泉 (暗渠) 水路：歌まで作った

テーブルB

四万十川：200種類の生物がいるのに近所の人知らない 町中に水族館をつくる R4から若い職員が チャレンジ政信 着地点を見極めてもっといい活動へ

手取川：ジオパーク認定 小中学生の遠足 昔の水害ででた大きな石 どんどん活用して「流域感覚」 伸びしろのある活動

貞山運河新堀：日本最大の運河 遊び心のあるフットパスや小屋、渡り橋 「アート」をキーとして活動

琵琶湖：思いっきり遊ぶ 伏流水や魚 体験 川好きであふれるように

黒潮町の川：11年間小学校で水質調査 好きなだけ遊ぶ ライフジャケットなし 行政が入るとライフジャケットつけるなど困ったこともある 川に興味を持つ子供を

テーブルC

「子供と一緒に」「高校生」などがキーワードに

木場 新しい部活・クラブ

TANAKAMI (大戸川ほか)、筋肉部 (黒目川)：川は楽しいので友達を連れ出す → 体験を通して川に興味を

小山川、明石川：深めて研究、発表まで

川に連れて行くことの大切さ

参加チームが情報交換をするテーブルになった

「新しいことのチャレンジ」「継続の重要性」

TANAKAMIが使った「川友 (かわとも)」というワード

## テーブルD

行政色の強いテーブル

矢作川：長い活動 官民協働 米とのりでおにぎり ジビエやアイスなど多様な交流

十勝川：洪水を乗り越えての活動を継続 子供の頃活動していた子が事務所に就職 長い目で見ての継続

天竜川：れき河原の復元 マニュアルを作成することで波及効果

白峰地域：もともと川からというより地域からの活動 山奥に信じられないくらい大学生が集まっている

## テーブルE

各チームがアドバイスしあって意見交換会のような感じだった

梯川：ベテラン世代ががんばっている

最上川：高い専門性 全国へ展開している

広瀬川：去年はアイデアだったが今年は形になっている

諏訪湖：市民と行政の協働 長年にわたって継続

ベテランと長い活動の団体があってシンポジウムみたいな雰囲気だった

## テーブルF

「水でつながる」が大事 世代が、伝統が、地域がつながる

加茂湖：漁業、農業とのつながり こうした活動は琵琶湖のような湖にもつながる？

芥川：王子は10年前から ほめられるのがよかった 世代がつなげる

四万十川：リバーマスター 4人しかいないが105人のリバーマスター図鑑 広くつなげる

珠洲市ため池：ため池の三割が行方不明 昔はワークショップがため池を扱うなんてという時代だった 農林省がやるもの

米川：子供をまちの川にという県は危ないと 大規模開発で駐車場の舗装などで大雨で一気に増水するから 大学生がこれを透水性にすればという研究をした

テーブルのスタッフが優秀だった